QScan 2023.0.3
Release Notes

2023 年 2 月

ビジュアル・グラフィックス株式会社

重要なお知らせ 2
新機能 2
　デフォルトのレポートテンプレート機能 2
　ラウドネス LRA 値の表示 3
バグフィックスおよび改善点 3
既知の問題 4

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

重要なお知らせ

- ソフトウェアバージョン毎のライセンス管理の導入により、v2023 へのアップデートには新しいライセンスが必要です。v2021.x を運用されている場合も、v2023 用のライセンスが必要となりますのでご注意ください。既に v2023.0 以降へアップデート済みのお客様はライセンス更新の必要はございません。各バージョンからのアップデート方法は別資料のアップデートガイドをご参照ください。
- PDF レポートの作成手法の変更に伴い、v2023.0 以降は Windows7 では動作しません。

新機能

デフォルトのレポートテンプレート機能

任意の PDF レポートテンプレートを、クイック分析、プロジェクト、および API ワークフローで使用するデフォルトのレポートテンプレートとして設定できるようになりました。レポートテンプレートを選択し、右上の「Set As Default」をクリックすると、名前の横に「+」の記号が表示されます。

アプリケーションの初期設定を使用したい場合は、「Factory Default」テンプレートを使用できます。選択中のテンプレートに対して初期設定をロードしたい場合は、右上の「Factory Reset」をクリックします。

※　2023.0.x からのアップデート後、「Set As Default」「Factory Reset」ボタンが表示されない場合は、ブラウザのキャッシュクリアーを行ってください。

※　アプリケーションの初期設定のレポートテンプレートで、すべてのイベントに対してサムネイルと波形表示がオンに設定されるようになりました。

ラウドネス LRA 値の表示

システムよって測定手法が異なるため、QScan のレポートでは新たに以下の 2 つの LRA 値を表示します。

- 最大 LRA 値（Max）：ファイル全体を通しての最大値
- ファイル LRA 値（File）：ファイル全体の LRA 測定値の統合値（最後の音声フレームの LRA 値）

ラウドネス情報

グループ	ラウドネス I	ラウドネスLRA (Max/File)	True Peak Max
1	-22.6 LUFS/LKFS	20 LUFS/9.5 LUFS	-9.8 dBTP

グループ	フロント	サラウンド	イベント（フレーム）		
1	ch.1,ch.2	-	-	-	-

バグフィックスおよび改善点

- 部分分析において、尺長のフレーム数とイベント尺長の TC 表示が矛盾する問題の修正
- PDF レポートでイベントの終了フレームのサムネイルが正しく表示されない問題の修正
- HTML および PDF レポートからマクロのイベントを削除できない問題の修正
- プロジェクトの削除後もシステムディスクのフォルダー内にサムネイル等のデータが残る問題の修正
- 不要な項目の削除：ラウドネス I パラメータに対する閾値の区間設定（ラウドネス I はファイル全体の積分値を使用し、特定の区間を計測する意味がないため）
- API に関する修正：プロジェクトがウォッチフォルダーを参照する場合、プロジェクト内のファイルのリストを取得する API コールが空の値を返すことがありました。この修正により、以下の API コールはファイルの個別選択またはウォッチフォルダーを介しての選択に関わらず、プロジェクト内のすべてのファイルを返すようになります。

```
GET /api-1/qc/jobs/{id}/files
```

- IMF 準拠に関するイベントが表示されない、IMF ファイルリストの問題の修正
- プロジェクト設定で PSE 検出が無効に設定されていても PDF レポートに「成功」と常に表示される問題の修正。PSE が無効に設定された場合、PSE レポートは PDF レポートに追加されないようになりました
- マクロをプロジェクトで使用する際にオーディオチャンネルの選択を変更できない問題の修正
- レポートテンプレートの作成・保存において、一度削除されたレポートテンプレートが再表示される問題の修正

既知の問題

- 部分分析の開始 TC にファイル内に存在しない TC を入力すると分析がループする
- 音声位相に閾値の区間設定を適用するとイベントが表示されない
- 閾値の区間設定において From tail と Duration の組み合わせを指定できない
- 音声イベントの尺長が 1 フレーム長く検出されることがある
- ラウドネス分析オフセットの値が設定済みの状態でテンプレートを結合でロードし、プロジェクトを保存すると、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルト（空欄）に戻る（回避方法：プロジェクトの保存後にラウドネスオフセットの値を入力し、改めてプロジェクトを保存する）
- HTML レポートにおいてファイル属性（フレームレートおよびアスペクト比）の表示が不適切である
- IMF の分析で、サマリーの PDF レポートがダウンロードできないことがある
- PDF レポートの表示に関する問題（既知のものは以下の通り）
  - ビデオフォーマットチェック、およびオーディオフォーマットチェックの閾値いくつかが、ヘッダーフォーマットチェックの閾値のセクションに表示される
  - イベント詳細および閾値に表示されない項目が存在する（音声ストリーム数、チャンネル数、平均音声位相、映像の有無、Gamut Check）
- レポート内において、個別の音声イベントに対する尺長（フレーム数）と深刻度に対するイベントの総フレーム数の表示が異なる
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾が表示されない（回避方法：タイムラインのズーム表示）
- 全てのビデオのパラメータを無効にした状態で、音声の閾値を区間設定とともに使用すると分析結果が「イベント無し」となることがある
- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（チャンクベースを使わない分析は正しい結果を提供する）
- テンプレートの適用で「置換」を使用した場合、分析設定が適切に読み込まれない場合がある。（回避方法：「結合する」を使用し、不要なパラメータを手動で無効に設定する）
- プロジェクト設定でレポート構成を変更した場合、UI から分析済みのレポートを更新できない
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度を変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC がファイルの先頭フレームの TC で表示される
- 閾値のアクションで「停止」を設定すると PDF レポートが自動生成されない。また、出力フォルダーが設定されている場合、ターゲットのフォルダーへ移動またはコピーされない
- V2021.x から v2023 へアップデート後に、既存のプロジェクトで分析した場合に PDF レポートが白紙で作成される場合がある（回避方法：新規プロジェクトを作成する。このとき、既存のプロジェクトをエクスポートしたものは使用しない）

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。